

特養フローラルさつなえ

(札幌市東区)

特養「フローラルさつなえ」(定員80人)は、大正時代から救護施設を運営してきた社会福祉法人札幌明啓院により1999年に札幌市東区東苗穂1条3丁目に開設された。2018年9月に発生した北海道胆振東部地震の際には、豊平川氾濫(はんらん)を想定し策定していたBCP(事業継続計画)を基に行動し大きな混乱がなかったという。公益事業では札幌刑務所刑務官に介護研修を行うなど、高齢者や生活困窮者らをはじめとする地域支援に取り組んでいる。



徒歩1分圏内に大型ショッピングセンターがある

北欧の施設環境、空間づくり導入
 フローラルさつなえは通所介護、ショートステイ、居宅介護支援のほか、生活困窮者らが生活する救護施設を併設した従来型特養。建物は東側が特養3階建て、西側が救護施設(4階建て)。2つの建物は各階往來できる造りになっており、火災等の際は緊急避難が可能。2、3階が居住フロアで現在は76人が生活している。

入所者は平均年齢87・4歳、平均要介護度3・8。車いす利用者が多いものの自立し、歩ける入所者もあり、館内を歩き回りおしゃべりをして回ったり、食堂スペースではテレビを見たり、雑談した

介護事業者はいま #648



▲本のある空間でくつろげるスペース「ほっとサロン」。看板は高谷施設長の力作



外部から講師を招き音楽療法も



利用者が集まる居心地の良い空間



裏庭は桜や花が咲く自然に囲まれた環境



裏庭で作業する利用者、入所者

居心地良い空間づくりに注力

がスウェーデンの介護施設を視察したのを、スタッフに話したのがきっかけとなり取り入れたものの1つという。特養とデイの共通して、デイの坂井敏治管理責任者は「認知症など、病

気や症状そのものに向き合うというよりも、生活で不便を感じている支障を取り除き、生活支援していくという考え方をしている」と強調。トレーニング機器は使用せず、目的に

を配置。入所者、利用者から提供された日(は本知識)に囲まれているだけで人間は落ちている手すりの下が、ベンチになっていたら疲れてしまうか。疲れ、とき、よろめいたとき、スッと座れるのであれば転倒事故も少なくなるのでは」と説明。内の介護施設に動

は「と考えている。東日本大震災の教訓生かしてBCP策定。高谷施設長は11年に起きた東日本大震災被災経験からBCP策定から3日後まで、4日目が半分になったら給油すると決めており、そのため燃料切れにならない移動手段が確保できている。

今後は、職員研修は、事故防止「口腔ケア」「感染症対策」など、内部研修を中心に実施。頻繁には行えないが、外部研修は本州で開かれる全国大会等に職員を派遣することも。研修を受ける職員は、全国でも同じような悩みを抱えている職員だけだ。自施設だけ、道内だけの問題ではなかったと感想があったという。



デイ帰宅前に利用者同士でゲームを楽しむ



デイ利用者の作品



5畳の小上がりが居心地の良さを演出



顔写真だけでなく、プロフィールが書かれた職員紹介パネル

顔写真だけでなく、プロフィールが書かれた職員紹介パネル... だ。

運営主体 社会福祉法人札幌明啓院
 住 札幌市東区東苗穂1条3丁目2番16号
 電話番号 011(780)6141